

項目	内容
名称	イグサ、トウシンソウ [英]Rush [学名]Juncus effusus L.、Juncus effusus L. ver. decipiens
概要	<p>イグサ属イグサ科の多年生草本。湿地に生え、草丈約1 mである。日本では、野生のイグサを16世紀頃から水田で栽培し、茎を乾燥したものを編んで畳表や花むしろを製造している。茎の中の芯（髄）は油をよく吸い上げる性質を持ち、昔は行灯の灯心として用いられたため、灯心草との別名がある。食用にされることはなかったが、最近、イグサ青汁や、イグサの粉末を使用したイグサ素麺等が製品化されている（101）。全草が専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）に該当し、食品に使用することはできないが、地上部の熱水抽出（100℃8分以上又は同等以上の方法）後の残渣は、医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）に該当し、食品として用いることができる。漢方処方材料として用いられ、日本薬局方外生薬規格にトウシンソウとして収載されている（102）。</p>
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none">・全草（トウシンソウ/イ/イグサ）：「専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）」に該当する。・イグサ（イ/イグサ）地上部の熱水抽出（100℃ 8分以上又は同等以上の方法）後の残渣：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）」に該当する。 <p>■ 食品添加物</p>

	・天然香料基原物質リスト イグサが収載されている。	
成分の特性・品質		
主な成分・性質	トリテルペン (ステルクリンA、シクロアルタン-3,25-ジオール、シクロアルタン-22-エン-24,25-ジオール)、トリテルペンサポニン (ジュンコシドII~V)、フェナンスレン誘導体 (ジュンクソール、エフシドI~V) 等を含む (101)。	
分析法	・中空部 (髄) の成分がメタノールで溶出された後、LC-NMRにより、標準品スペクトルを参照して同定されている (2002188683)。	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
	その他	調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (101) 健康・機能性食品の基原植物事典 中央法規
(102) 日本薬局方外生薬規格 2018 : 厚生労働省医薬・生活衛生局
(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
(2002188683) Natural Med. 2002;56(1):17.